コロナ禍の夏休みでも 楽しい思い出できた!!

小学校の夏休み初日の8月1日、公民館・図書館・愛ランド島内運営委員会共催で、「おはなしの会スペシャル」＆「みんなの島内クイズラリー・竹の水鉄砲づくり」が開催され、親子50人が参加しました。

島内公民

令和2年9月1日現在

総人口	12,613人
男	6,153人
女	6,460人
世帯数	5,356世帯

島内公民館　電話 47-0264　FAX 40-1264

戦後75年をむかえての 人馬戦没者慰霊祭

9月3日、大宮神社境内の忠魂碑および軍馬忠霊塔前で島内地区人馬戦没者慰霊祭が営まれました。

当日は慰霊文を奉読の後、遺族や諸団体役員など約60名の出席者が献花を行い、慰霊と恒久平和を祈りました。

戦後75年を迎えた今、改めて忠魂碑と軍馬忠霊塔の来歴について調べました。昭和27年5月号の島内公民館報に《世に出た忠魂碑》「敗戦のとばっちりはお国の為と散った英霊まで地下にしん吟させる事6年9ヶ月、去る13日島内村奉賛会は軍馬忠霊塔を川端馬頭観音様の横に忠魂碑を大宮社の境内に再建した」との記事があります。

忠魂碑が最初に建立されたのは昭和3年12月で、現島内小学校旧校門前です。記事から、終戦の混乱期に撤去・埋没などを経て、再建されたことが推定できます。

軍馬忠霊塔は「昭和14年12月建之」と石碑に記されていますが、誰がどのように建てたのか、またどのような経緯をたどったかは不明です。しかし、記事に「川端（現在の新橋）馬頭観音の横に再建した」と記された場所は、当時の川端観音堂の南側だったということが判りました。そこから現在の大宮神社へいつ移転したのかは不明ですが、昭和52年9月号《戦没者並びに軍馬慰霊祭に参列して》の館報記事から、昭和52年には、すでに大宮神社へ移転していたことが判りました。

戦後75年、戦争体験や記憶の風化は著しく、記憶を記録に変えていく必要性を感じました。

コロナと私たちの生活 2
多様性が認められる社会に

私は中学時代に陸上をはじめ、現在も趣味でフルマラソンを楽しんでいます。縁あって、知的障害のある人にスポーツの場を提供し、社会参加を支援するSO（スペシャルオリンピックス）の活動の一環で、松本市の陸上プログラムにコーチとして参加をしています。

この活動をきっかけに、東京オリンピックの聖火ランナーに選んでいただきました。開催延期が決まり、今年は聖火を繋ぐことができませんでした。これまでたくさんの努力を重ねてきた選手の皆さんの気持ちを想うと残念です。またコロナ禍の様々な影響により苦しんでいるたくさんの方、そして必死で闘っている医療従事者の方々に、一日も早く穏やかな日常が戻ることを願っています。

来年のオリンピックの開催は難しいかもしれませんが、今後もこのスペシャルオリンピックスの活動を広め、障害の有無だけでなく多様性が認められるあたたかい社会になることを願いながら、活動を続けていきたいと思っています。

（中村　優里　島高松）

特集 7月豪雨災害を振り返る

7月5日から8日にかけて松本市内で降り続いた雨は、土砂崩落等による被害を市内各所にもたらしました。島内でも水路の溢水等が発生し、公民館で避難者の受け入れもありました。今回の災害を改めて振り返り、近年増加する自然災害への備えを考えます。

経過

松本地域大雨警報発表から松本市災害対策本部設置へ

6日正午頃、前日から降り続いた雨の影響で、松本地域に大雨警報（土砂災害）発表。

7日午後11時10分、乗鞍・上高地地域に土砂災害警戒情報発表。

8日午前3時10分、大野川区と沢渡町会に避難勧告が発令。午前6時、乗鞍観光センターとグレンパークさわんどに避難所開設。その後も降雨量は増え続け、午前6時43分には「大雨特別警報」が発表され、市では避難勧告を市内全域の土砂災害警戒区域に広げる。午前7時45分、松本市災害対策本部を設置。午前8時8分、松本地域に洪水警報発表。

市内43施設の避難所開設から閉鎖まで

8日午前8時20分、市内35地区の公民館を避難所として開設。全地区公民館が避難所となるのは、現在の市域へ広がって初めてのことで、設置済みの2箇所（安曇地区）と合わせた37箇所に169人が避難。さらに、自主的に避難した人を、まつもと市民芸術館など6箇所に54人受け入れた。

午前10時過ぎ、徐々に天候が回復。正午頃から各警報の解除を発表し、午後4時過ぎには全ての避難所が閉鎖。

被害状況

市内各所では、土砂崩落による国道及び県道等の一時通行止めや上高地の宿泊施設での孤立、倒木、停電、住宅の床上浸水（一件）等の被害はありましたが、幸いにも人的被害は一件もありませんでした。

島内の状況

避難所の島内公民館では、感染症対策を行いながら、要介護者や高齢者など8名を受け入れました（新村公民館へ島内から2名避難者有）。

また、下田町会では側溝の溢水や倒木があり、さらに土砂崩落等の危険性があったため、自主的に青年の家へ避難しました（10世帯20人）。

島高松駅北側の用水路も一時溢水しましたが、町会や消防団等の協力で住宅への被害はありませんでした。一方、梓橋南河川敷のマレットゴルフ場は全面的に浸水しましたが、9月上旬時点で10～18番ホールまで復旧が進んでいます。

災害に備える

災害の後、島内の住民からは「警報が流れる中、迷いながら出勤していると、突然自宅待機の連絡が入った」「避難しようとしたが、自宅と公民館のどちらが安全か迷った」「通学後に休校の学校もあることを知り、不安になった」などの声がありました。

いざという時にどうすればよいのかは立場や災害の状況、時間帯によっても異なります。災害への「物品的な備え」だけではなく、自分が置かれている災害予測・対策に関わる環境をハザードマップ等で把握し、実際の行動をシミュレーションすることで、「心の備え」を持つことも大切ではないでしょうか。

※ハザードマップ等を確認する場合は、市HPか地域づくりセンターへ

歴史すごろく 弐

下田の川手口口留番所跡

国道19号の安曇野市との境、JR篠ノ井線沿いにある。

江戸中期には藩境であったため、街道や犀川の往来を取り締まる松本藩の番所であった。犀川には「渡し船」の乗り場があり、昭和20年頃まで運行していた。安曇野市の高校に通うために利用した人も多かったという。

ここは「やじきた珍道中」で有名な十返舎一九の「続膝栗毛」にも出てくる。

そこに描かれている地蔵菩薩ではないかと言われるお地蔵さまが、今も道を見守っている。

親子のふれ合い「笑顔で体操」

8月20日、公民館・民生児童委員協議会・福祉ひろば共催による「親子体操教室」が開催され、未就学園児と母親10組20名が参加しました。

新型コロナウイルスの影響で、今年度初めての子育て事業となりましたが、3密を避けるなどの対策を行いながら、親子でふれ合いました。

参加した20代母親は「交流する場がなく、子育てで不安を感じる日もあるが、今日はリフレッシュできた」と話していました。